

2021年12月のてがたんも少人数・申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回1月のてがたんは1月8日(土)で、テーマは「もっと知りたいユリカモメ」です。ぜひご参加ください。1月5日から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は12月26日(日)です。

## 12月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→ミニ手賀沼→親水広場
- 観察日時と天気：2021年12月11日(土) 10:00～11:00 晴れ
- 参加人数：10名(大人10名)
- 市民スタッフ：6名(蒲田知子、石原直子、伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、伴野茂樹)
- 博物館友の会スタッフ：1名(古澤紀元)
- 鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

## 観察した生き物の記録

「\*」は、下見だけで見られたもの。

### 【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：マガモ\*、カルガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：オオバン/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ\*/ミサゴ科：ミサゴ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/メジロ科：メジロ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ヒタキ科：ツグミ、ジョウビタキ(声)\*/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン  
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

### 【哺乳類・魚類】

タヌキ(ため糞、足跡)、フナ属の一種(ハシボソガラスが死体を捕食)\*

### 【昆虫】

チョウ目：モンキチョウ、チャミノガ(さなぎ)/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ/ハエ目：キンバエ、オオクロバエ(タヌキの糞)、ユスリカの仲間/バッタ目：コバネイナゴ(モズが捕食)\*

### 【花】

草の花 キク科：コセンダングサ、ノゲシ、ハキダメギク、セイヨウタンポポ、ノボロギク、オオジシバリ、ブタナ、ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン/シソ科：ホトケノザ、ヒメジソ/カタバミ科：カタバミ/ナデシコ科：オランダミミナグサ/アブラナ科：ナズナ/  
木の花 ツバキ科：サザンカの仲間/ウコギ科：ヤツデ

### 【実】

ウリ科：カラスウリ/クスノキ科：クスノキ、シロダモ/メギ科：ナンテン/バラ科：トキワサンザシ/アサ科：ムクノキ

# 12月の観察アルバム



今回のテーマは「白黒つけよう！2種のセキレイ」でした。親水広場の周辺を歩き、ハクセキレイとセグロセキレイそれぞれの羽色や声の違いや行動をじっくり観察することができました。



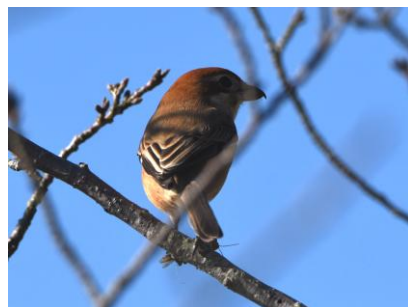
今月の案内人  
小田谷嘉弥・蒲田知子



①メジロが食べていたエノキの実



②親水広場の東側になわばりを張っていたハクセキレイの雄。



③沼沿いのサクラに止まっていたモズ



④水の館の前になわばりを張っていたハクセキレイの雄。



歩いたルートと観察した生き物



⑤ハクセキレイの雌。④の雄とつかず離れず行動していた。



⑥水の館西側の畑になわばりを張っていたハクセキレイの雄。



⑦セグロセキレイの雄。⑥のハクセキレイと同じ畑で餌を探していた。



⑧遊歩道沿いにあったタヌキのため糞

## 今月の鳥 セグロセキレイ (スズメ目セキレイ科)

手賀沼周辺では2種の白黒のセキレイが見られます。そのうち、頭部が黒っぽくて目の下が黒いのがセグロセキレイです。よく似たハクセキレイは顔が白っぽく、目の下が幅広く白いのが特徴です。背の色は両種ともに季節により変化し、ハクセキレイの雄は夏には背が黒くなり、セグロセキレイの雌は冬には頭部より少し色が淡くなります。鳴き声の違いは一年中識別に有効です。ハクセキレイが町中の駐車場などの都市の環境でも見られるのに対し、セグロセキレイは沼や川沿いなどの水辺に近いところを好みます。越冬期には両種ともに同じ個体が同じなわばりの中で見られることが多いので、個体ごとに異なる背の色や頭の色を手掛かりに、個体を見分けてみるのも楽しみ方の一つです。



ハス田で採食するセグロセキレイの雌